

緑のまちあれこれ

- 新年の街の風景は、元日だけは静かだったが、2日からスーパーも開き、4日からはカレンダー通りに平常に動きだした。松の内ということばも、時代の流れなのだろうか、今では死語に近づいている。
- 北国分に交通信号機がないことは皆さんご存知のとおりですが、北国分駅前には交番がない。案内板が立っているだけ。矢切駅前のものは松戸警察署で、市川署の交番はじゅんさい池。メダカやザリガニ・おたまじゃくしがいた道免き谷津のいくつかの溜池はとっくになくなった。それでも北国分には、愛宕神社、禅照庵、小塚山市民の森、(すぐ隣に堀之内貝塚、博物館)、老人集会所と保育園、小塚山研修所があり、交番のない北国分はそれだけ平和な緑のまちだといえなくもない。また、北国分にはコンビニがひとつもない。北国分駅近くの堀之内にはコンビニが3つあったが、そのうち駅に最も近い一つがつぶれてもう大分経つ。そのコンビニ跡に、「元気野菜」という看板が掲げられていた。農産物直売場ができるという。
- 今は北国分駅から市川、松戸方面へはバスが出ていますが、以前は中矢切からバスに乗っていました。バス停の近くにはお菓子などを売るお店もあり、その他、県道沿いにはいろいろなお店がありました。今ではその面影はなく、ひっそりとした所になっています。その反面、バス停で待っていると、大型トラックなどがどんどん走ってきます。その車の流れは、いま工事中の外環道と並行して走る国道からの流れでした。大型車が通るたびに地震のようなゆれを感じてしまいます。県道には新しく広げた歩道が伸びています。それが妙にさみしく感じられるのは、街の様子が変わってしまったからでしょうか。国道を江戸川方面に少し行った所に大きな歩道橋ができていました。どんなものかと思って行って見たら、あまりに立派でびっくりしてしまいました。自転車やベビーカーでも通れるように長いスロープの道ができていました。この歩道橋を渡るには何分かかるとかなと思うほどの長さでした。北国分のどうめき谷津にも歩道橋が出来る予定と聞いていますが、これと同じようなものができたら、渡るのは大変だろうなと思ってしまいました。(S.Y.)

■編集後記■

2010年の新春を迎えることになった。「緑のまち」も今年で92号になる。もうすぐ100号。小塚山での第1回の森の音楽会のことなどが思い出される。

今年も、竹内庸悦さんに新年号の表紙を飾っていただいた。

緑のまち

—北国分だより—

第92号

2010.1.20 発行



編集 北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-29-12 越田方
Tel 047-372-8936
www.midorinomachi.net

賀 春
2010年



見張らぬ
いふ森
10.1.5北国分/TD



今後の市政に期待する

西畑 健一

総選挙で、万年保守政権の自民党内閣が崩壊した。新市長は民主党からの推薦で、これまでの市川市政も大きく変換されることになることを期待している。市川は平和文化都市を宣言しており、行政面での取り組みにこれまでとは違った結果が求められ、民主党のマニフェストにも示されているように、外環などの社会資本重視から地域文化推進への政策転換を期待したい。

市川は、なんといっても真間の手古奈の伝説で山部赤人・高橋虫麻呂の歌によって都にまで伝わった。それも市川に下総国府があったからである。古く縄文の昔から市川は水と陸の交通上の結節点で、北関東の生産物と東京湾を経て都からの文物が入ってきた。

堀之内・曾谷・姥山貝塚、法皇塚古墳・明戸古墳、下総国分寺といった史跡のほか、国府台合戦の里見公園、平将門の伝説等、東の鎌倉と称えられ、周辺の松戸・船橋と比べてみても、歴史的文化的財には事欠かない。考古・歴史・自然博と三つもの市立博物館を有し、優秀な学芸員をそろえている行政施設は千葉県、いや全国でもそうはない。

真間周辺には、荷風・露伴・白秋の旧宅があり、かつては市外から多くの観光客が訪れていた。水木洋子宅・東山魁夷美術館・芳沢ギャラリーなど、最近市も文学プラザなどの活動とともに力を入れてきているようだが、その効果はどうなのだろうか。市川・八幡には駅前の呑み屋はあっても、気のきいた喫茶店がない。ギャラリーや文化ホールはあってもそんなに話題となる企画もない。映画館も劇場もなくなった。要は、人が来ないということは、たとえ外環ができて（いつになるかはわからないが）車は通過するだけなのだ。市民の大半は会社も学校も東京に通う千葉市民で、所得税は都に落ちている。いままさに住民主権の政策が行政には求められているのだ。鎌倉とか京都といった大都市でなく、石岡とか三島とか国分寺所在の地方都市との姉妹都市提携はいかがなものか。商店街を含めて街全体で、活気ある独特の文化的な環境をつくり出してゆく気運が必要だ。

新年に際し、大久保新市長に一つ具体的な提案がある。郷土の生んだ偉大な文化人、考古学者の杉原荘介氏を顕彰する賞金100万円の杉原文化賞を設定したらどうだろうか。選考事務・選考委員謝礼などを含めても300万円程度の支出で可能なプランである。文学賞としての宗左近賞、新人演劇賞としての水木洋子賞なども市川の文化政策を世間に広く示す賞となるかもしれない。ちなみに、詩では晩翠賞（仙台市）、小野十三郎賞（大阪市）、中原中也賞（山口市）など、民間機関の協力で、自治体が選定している公募の賞があり、それぞれの地域文化に貢献していることを付け加えて提案とする。 2009.12.30

第12回公害調停



10月22日、千葉市で開催。住民19人が参加。調停委員会から提案された調停案骨子に対し、申請人（住民）・被申請人（国など）双方、意見を述べました。

- 公害調停 第3回準備会 12月10日 千葉市で開催。
調停案骨子に対する意見書に基き、双方発言しました
- 公害調停 第4回準備会 2月25日 千葉市で開催されます。



虎の子渡し

虎が三匹の子を生むと、その一匹を彪といい、ほかの子を食ってしまうので、水を渡るとき、親の虎はまず彪をくわえて渡し、次に別の子に渡し、彪を連れ戻し、さらに残りの一匹を渡し、最後に再び彪を渡したという説話から、苦しい生活のやりくりすることを使う。

新春詠

石川 みさ子

あらたまの 箸かるやかに卵とく

火渡りの 炎の向きを恵方とす

鯉の背に 日のゆらゆらと 初庚申

山本 愛子

赤き実に 番（つがひ）の鳥の御慶かな

翁らは うなぎ屋に居て 初不動

初日の出 二人 二拍子 揃ひたり

小塚山周辺・外環工事の現状と今後

石居 隆行

小塚山トンネル工事の大規模な工程でありました函体推進工事（地中部分のコンクリート製構造躯体を防音ハウス内で打ち込み、水平にスライドさせてゆく工事）も、昨年ではほぼ終了し、一年ほど延長されましたが、平成22年3月末で終了するとのこと。この時点で、小塚山周辺部分の工事が終わるのかといえ、そうではありません。次には、一般道路部分や北総線交差部分（コンクリートの構造躯体がかなり出来上がっております）との連結部工程等、まだまだ続きます。また、小塚山の先の‘道免き谷津’も同様な工事が行われる予定で、現在重機を安定して保つための地盤改良作業に入っており、このあと本格的な掘削作業に入り、多量の掘削残土を大型ダンプカーで運び出し、小塚山の工事道路を抜けて行くわけです。おそらく国分操車場付近まで延々と続くのではないのでしょうか。昨年の政権交代で、予算の都合上、一時的延期があるのではないかと、わずかな希望を持っておりましたが、これらの工事は単年度ではなく、複数年度による予算のため、既に決定しているものに関しては工事が進められるようです。

この間私たち近隣住民は、昼間の作業騒音・振動と24時間工事による深夜の突発的振動および継続的微振動に、数年間も悩まされてきたわけです。外環対策協議会の方々の働きかけで、具体的数値が公表されましたので、ここで少し触れたいと思います。昨年4月半ば頃から半月程、深夜に起こされた時のものですが、昼休み（12時から1時）は作業停止、ゲートも閉じ工事車両も通りません。この時の振動測定は27～30デシベル、これを基準（昼間でも工事がやめば、小塚山はこんなに静かなのです）とします。夜9時前後から明け方5時の間にスポットで、30分から1時間程度、45～50デシベルの振動が幾度となく起こりました。深夜に45デシベル以上の振動を起こすような工事をすれば、民間事業者であれば工事停止だけでなく、一定期間の営業停止の行政処分が下されるのが普通です。国が事業者であれば、このような事も許されてしまうという現実、私は恐怖を覚えました。この間、首都国道事務所側には、再三再四深夜の工事は止めるよう働きかけましたが、のらりくらりとかわされ、いつの間にかほぼ工事が完了してしまいました。当初、深夜においては、騒音・振動を発生させる工事は行わないという約束でしたが、ついに守られません。既に一部の道路は完成しつつあります。今後、298号線から小塚山方面へ、部分供用も含めた開通が実施されれば大変なことになることは、皆様想像がつくことでしょう。新政権も約束を守ることが困難になってきている昨今、これも現実としてありえる話ではないのでしょうか。皆様、わずかでも希望を捨てずに注意深く、一層の関心をお寄せ下さるようお願いいたします。

□探鳥会□



日時：平成21年11月29日（日）

天候：晴

参加者：浅田 飯山 今林 梅地 小沢 金子 川上 川上マユ
越田 小島 佐々木 鈴木 鈴木 松林 三好 村岡
米本 渡辺 18人

確認された鳥：

カルガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ
ホシハジロ キンクロハジロ ユリカモメ コゲラ
ハクセキレイ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス
シジュウカラ メジロ ハシボソガラス ハシブトガラス
計17種

コメント：晴れて、気持ちのよい天気でした。すっかり秋色になった林と落ち葉を踏みながら、皆で歩きました。冬鳥はまだ少し早かったようです。小塚山でコゲラの行動をじっくり見ることができました。（村岡幸生）

次回 2月14日（日） 小塚山あずまや 10時集合（雨天中止）

どうぞお気軽におでかけください

野鳥観察会に参加して

浅田 和子

バードウォッチングで、双眼鏡買ったの、と新婦人じゅんさい池の仲間とおしゃべりのなか、マサ子さんからの誘いで11月の最終日曜日、朝、早起きしてバードウォッチングに参加しました。集合場所の小塚山は、5月の森の音楽会の時とは違っていました。

今日は何種類の鳥に遇えるか予想をし、自己紹介を終え出発。落ち葉を踏み、耳を澄ませ、鳥の声を聞き、確かめ、じゅんさい池公園まで散策をしました。

鶯はホーホケキョウと鳴くだけではなく、いろいろな鳴き声でおしゃべりしている。鴨は、じゅんさい池公園で鯉や鳥に餌をやる人の楽しみのためズボラになり、パンで食事をすますようになっているそうです。五感を使い、人も自然の一部と気付かせて頂く観察会でした。有難うございました。

初春を告げるロウバイ

谷口 浩之

野の花が目立たない寒い季節の中、わが「緑のまち」を散歩していると、馥郁とした香りが漂ってきます。その香りに誘われてふと見るとロウバイの花が眼に留まります。

冬の花サザンカの赤に比べると、小さく淡黄色の地味な色なので気づきにくいのですが、冬枯れの街の中、香りですぐそれと分かります。

冬の光の中で見る花は、名の通り「蠟細工」のように見事な造形を見せています。名前の由来はいくつかあるようですが、その蠟細工に似た梅の花を思わせる花から付いたということは容易に考えられます。お茶席に活ける花として利用されているようです。



野の花というより庭木のせいもあって、元のロウバイからいくつかの栽培種がつけられているようですが、素人の私には詳しい違いが分かりません。しかし、かぐわしい香りがお正月を華やいだものにしてきているのは、確かです。

古い葉が枯れ落ちてから花が咲きます。例年ですと暮れに咲き出しますが、今年はまだ目立つほど開花せず、蕾のまま越年しそうです。「緑のまち」を手にする頃には、見頃になっていることでしょう。

この後、花の香りは梅、沈丁花とリレーされ、春へと続きます。

*

昨年の冬、この稿でサザンカのことを書きました。いつかテレビで大川栄作が「サザンカと椿の違いはうぶげがある。なにしろ何十年も研究しているから分かる」というようなことをいっていた（演歌「さざんかの宿」を何十年も歌っている人だった）。面白かった。また、同じ稿を読まれたHさんから、「私も同じ小学校に通った」と電話があり、何十年か前にタイムスリップした。



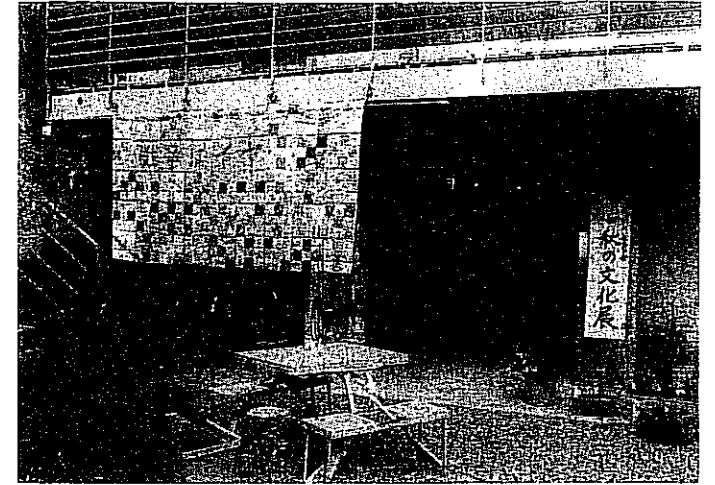
「こうのだい九条の会」第2回秋の文化展

松林 マサ子

2010年も明け、憲法9条を変えるための国民投票がこの5月に施行されます。とても不安に思っています。

国民投票法案をきっかけに、北国分・国府台・中国分・堀之内の地域で、2008年5月に「こうのだい九条の会」が結成されました。

この地域は、芸術家の方々、また多方面の技術・趣味をお持ちの方がたくさんいらっしゃることで、昨年同様、第2回秋の文化展を11月28日～12月6日まで、国府台3丁目の「SPACE SONO」で開催し、57人の方々の作品を展示することができました。延べ260人を超える方が来場され、九条の会の活動趣旨を知っていただくこともできたと思います。



期間中、あいにくの荒天もありましたが、会場前の里見公園の紅葉が色鮮やかに出迎えてくれました。第1回文化展の際、来訪者に依頼し45人の方のご協力で完成した「戦争はイヤ」の大タペストリーが会場前に大きく飾られ、散歩中の方にも見ていただきました。

会場内は、絵画、漆工芸、書道、銅版画、パッチワーク、俳句、ペン習字、陶器、写真、ジオラマ、絵手紙、刺繍、編み物、手芸などで、どの作品も素晴らしく、愛情あふれるものでした。80歳を超えるご夫婦からのこころ和む作品もあり、北国分から7人の方に出品していただきました。ありがとうございました。来訪者から、昨年以上に内容も展示も充実していたとの感想があり、ほっとしております。

5月の国民投票法にむけて、こうのだい九条の会の趣旨に賛同してくださるさらに多くの方と手を結び、二度と戦争が起こらないように憲法9条を守るため歩んでゆきたいと願っております。

